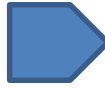


H.20.1佐賀大学中長期ビジョンの策定

- 教養教育を人間形成の中心的な役割を担う教育の根幹と位置付け
- 教育課程ごとの目的に沿った専門教育の実質化



全学教育機構の創設を提言

- 21世紀における知的基盤社会を支える豊かな教養と専門性を兼ね備えた市民の育成
- 大学教育の根幹としての教養教育
- 教育の質保証
- 留学生教育の充実・強化
- 責任部局として一体的な教育体制を整備

主として教養教育
改革の視点

その後の動き

学内の動き

- H.20.4 全学教育検討WGの設置
- H.21.3 全学教育検討WG報告（教養教育改革）
- H.21.4 学士課程検討委員会設置
- H.22.2 「佐賀大学学士力」の策定（学士力の保障）
- H.22.3 第2期中期計画策定（新たな教養教育の実施）
- H.22.6 全学教育機構（仮称）設置準備室設置
- H.23.2 全学教育機構（仮称）の設置について（答申）
（全学教育機構の組織・教育のあり方）

- H.20. 1 AHELOのフィージビリティ・スタディに参加（文部科学大臣）→国際的な学習成果の評価
- H.20. 9 中長期的な大学教育の在り方について(中教審諮問) ~ →「学位プログラム」を中心とする大学制度、社会や学生のニーズ、質の保証等を論議 → 第一次から第四次まで報告済み
- H.20.12 学士課程教育の構築に向けて(中教審答申) →学位を与える課程中心の考え方
- H.22. 7 大学教育の分野別質保証の在り方について（日本学術会議から文科省への回答） →分野別の学士課程の質保証

文科省・中教審等の動き

学士課程の教養教育

学士力

学士課程の専門分野の教育

推進

保証

支援

全学教育機構 平成23年4月1日設置

教養教育の充実

学部と共同して行う学士課程教育の質の保証

高等教育の改善

留学生教育の充実

アドミッション及びキャリアとの連携

「佐賀大学全学教育機構」

機構設置：平成23年4月1日（金）



【看板制作者】

☆揮毫 佐賀大学名誉教授

（H23.4当時 文化教育学部 教授）

竹之内 裕 章

☆刻字 文化教育学部 准教授

（H23.4当時 文化教育学部 講師）

井 川 健



インターフェース教育を核とした教養教育

第2期中期目標・中期計画における新たな教養教育

佐賀大学中長期ビジョン：大学教育の根幹としての教養教育
 理念は「**人間としての在り方や生き方に関する深い洞察力や現実を正しく理解する力を涵養**」

- ①専門分野の枠組みを超えて共通に求められる知識・思考方法・知的技法の修得
- ②国際社会に適切・柔軟に対応できる能力の涵養

佐賀大学学士力

学士課程教育を保证する教養教育

- ①基礎的な知識と技能
- ②課題発見・解決能力
- ③個人と社会の持続的発展を支える力

教養教育の理念実現の教育領域

- ①普遍的な教養の教育領域(教養教育領域)
- ②現代的な課題を通して専門性の意義・限界を理解する新しい教育の領域(**インターフェース領域**) (『全学教育検討WG報告』)

教養教育の核としての「インターフェース教育」

- ①一般教育：インターフェース教育に必要とされる「**市民性の涵養**」(基本的な知識・技能・思考力)
- ②インターフェース教育：「**社会との接続**」と「**個人と社会との持続的発展を支える力の育成**」(『全学教育機構(仮称)の設置について(答申)』)

新たな教養教育
平成25年実施

◆教養教育科目の構成◆

大学入門
科目

共通基礎科目

- ◇外国語科目
- ◇健康・スポーツ科目
- ◇情報リテラシー科目

基本教養科目

- ◇自然科学と技術の分野
- ◇文化の分野
- ◇現代社会の分野

インターフェース科目

- ◇環境コース
- ◇文化と共生コース
- ◇生活と科学コース
- ◇医療福祉と社会コース
- ◇地域・佐賀学コース

インターフェース教育の目標

- **大学と社会とを結びつける教育**として位置付け、知識・技能を社会において十全に活かすための力を身につける。
- 現代社会の問題の中に自ら課題を発見し、解決する姿勢を培い、解決のための方途を見出す。
 学生は、課題の発見に際して、聞く力・話す力と協働する力、解決する姿勢の獲得に際しては、倫理観や社会的責任感、解決方途の発見に際しては、持続的学習力と社会参画力を、学習成果として身につけ、卒業研究などの専門教育と融合して「**個人と社会との持続的発展を支える力**」を修得する。
- 各プログラムに特定の問題事象を与え、様々な分野からなる四つの授業科目を順次に学ぶ教育では、調査、報告、討議、実験、実習などの**アクティブ・ラーニング**を多用する。

新たな学び
平成26年度前期・
後期インターフェー
ス科目開講

現代社会の問題を理解し、グローバル社会を生き抜くことができる、タフでチャレンジングな人材を養成